



剛氣果敢

神奈川県大学体育会剣道部通信

平成30年4月1日 第2号
 発行人 神奈川県大学体育会剣道部
 部長 照屋 行雄
 編集人 広報委員長 小山 篤
 net34186@aiayu.ne.jp
 090-2668-0189

神奈川県横浜キャンパス18年、平塚キャンパス22年の教職を辞し、秋田の田舎に帰って8年目になろうとしております。平成23年の送別の席には現役部員を含め約200名の出席を頂き、生涯忘れ得ぬ会を催してもらいありがとうございました、幸せなことです。また、退職し剣道部には直接携わらなくなった今でも、神大剣道部の各種試合結果、活動動向を伊藤監督から一つひとつ報告を頂いており、男女とも勝っては喜び、負けては残念次こそはと、いつも何かしら心に響いている次第です。

秋田に帰って以来、在職中は地元で諸々協力出来なかったことがドーンと背負われ、大学に勤務していた頃よりも多忙の日があるという現在の私です。40年も地元を留守にしていた罰として、素直に引き受けざるを得なかったのが正直な気持ちです。(まちづくり・児童減少による学校問題・県、市の剣道関係・他諸々)

剣道については、私を含め小中高での五人の同期が集まり稽古会(名称、剣志会)を行っております。会を発足するにあたっては、「もう一度剣道の原点に戻り、基本稽古、剣道形の重要性を再認識し、剣心一如の精神でもって正しい剣道を学ぼう」と、いろいろな角度からお互い意見を言い合い、切磋琢磨している現在です。因みに、昨年は秋田で「ねりんピック秋田2017」が開催され、我が剣志会からは監督・選手4名が県代表になり、私も一選手として出場させて頂きました。今年は富山県が会場、片山先輩(昭52年卒)の活躍を期待しております。

昨年の秋、剣道部平成十、十一年の卒業生(片山主将以下6名)が秋田の田舎に来てくれました。現役の頃の懐かしい話、特に国士舘大学を破り全日本出場(平9年)を得た先輩方、秋田の田舎の寒い夜中まで話が弾み楽しい一夜を過ごさせて頂きました。

現在の関東学生剣道連盟、男女とも諸々の推薦制度を採用している大学が2/3はあるのではないかと思います。その厳しい中で勝ち上がり全日本出場は大変かと思いますが、部員一人ひとりが目標を定め、求める気持ちを常に忘れず努力すれば必ず大望成就されると確信しております。

フー、フー、剣道部先輩の皆様、現役後輩達のご指導よろしくお願い致します。

照屋剣道部長、伊藤監督、指導スタッフのご労力に心から感謝しております。



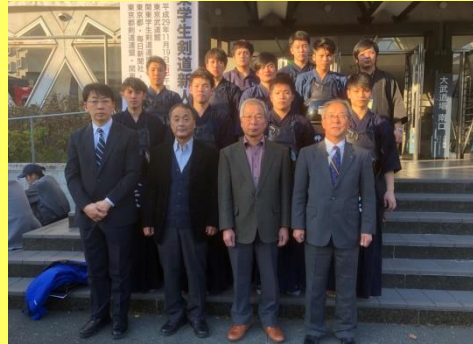
特別顧問
小松 幸円先生



「ねりんピック秋田」で優勝され、活躍する小松先生

大会報告

- ◆関東学生剣道新人戦大会 平成29年11月19日、東京武道館
- ◆関東女子学生剣道新人戦大会 平成29年12月3日、墨田区総合体育館



大学1・2年生による男子、女子の関東学生剣道新人戦大会がそれぞれ開催されました。2・3年生(試合当時1・2年生)に大会を振り返る想いを文章にして提出していただきました。今回は、選手として参加した者、観客席で応援した者等、それぞれ熱い想いを紹介します。

2年男子 柿原 宏樹(神奈川県・神奈川大学附属高校)

自分は関東学生新人大会で応援として観客席で試合を見ていた。12時ごろまで立ち看板のため、試合を見ることはできなかったが、幸運なことに神大の試合はすべて見る事ができた。その試合を見て自分が周りの人に対して大きく力が劣っていることが感じられた。同期では坂本や山崎、橋本など自分より何倍もつよい選手が普段よりも力を出しても引き分けるのがやっとだった流通大学など自分と大きく力の離れた選手をありありと感じることができた。また、吉永先輩や土谷先輩など調子が悪く、格下との試合ですら苦勞をしている姿を見て試合への調整の難しさを感じ取れた。それでも最後の試合では調子を戻し試合に挑む姿を見て、さすが先輩方だと感じた。自分は今回の試合をみて選手になり他校と試合をしたいと改めて感じた。

3年男子 土谷 隆太(神奈川県・横浜商大高校)

今回の新人戦は昨年の悔しい結果を踏まえた上で望んだ大会でした。県大会から新人戦まで同じチームで戦ってチームとしてとてもまとまったチームで試合ができたと感じました。私は、個人的に課題が残った試合になりました。1試合目対日工大では、前の選手が勝ってきてくれたにもかかわらず、先に1本を取られてしまいました。慌てないでいつもの通りの試合をしたらよかったのに、慌ててやたらに打ってしまい、負けてしまいました。2試合目対横国大では初立ちの入りから集中ができず、そこを打たれてしまい、負けてしまった。3試合目対流大では試合前から動ける状態をつくらなくてはと思い、ずっと体を動かしていた。その結果いつもの通りの試合はできなかったが、だいぶ状態もよくなり結果は引き分けだったが、この日の中では一番よい試合となった。今回の試合で技術面では負けていなかったが、体幹面で負けていたのでここを修正していきたい。

2年女子 春日 エミリ(長野県・上田西高校)

今回の大会は選手として出ることができたということが私にとってとても良い経験になった。第一に、応援の大切さがわかった。周りからの拍手や声援があることによって選手のモチベーションも変わってくると思った。なので、これから応援するときは、選手のモチベーションを上げられるような応援をしたい。次に、今回の大会の相手のように自分たちと同じくらいの力のチームとの試合では一本の差が勝負を決めてしまうということがよくわかった。一本一本に貪欲になり、チームとして次に繋げていけるような試合をしていくことが大切だと思った。大会では一回戦敗退に終わってしまった。チームとしての反省、そして私個人の反省点を今後の稽古で改善させていきたい。これからは、応援でも選手でもチームに貢献できるようにしていきたい。

3年女子 安見 叶夢(愛媛県・済美高校)

今回の新人戦では、関東大会1回戦という結果でした。女子の中での課題として打突力をあげているのですが、一本にできない技も多くあってまだまだ打突力という部分で欠けていると感じました。自分にも一本にしきれなかった場面がありました。これからの課題でもあるので、5月の大会に向けて調整していきたいです。本番で自分の力を最大限に発揮するために、普段の稽古でお互いが緊張感をもって稽古することや、他大学に稽古や練習試合に行くことで自分たちに無いものを何か得ることがあると思います。また、勝っている状態や負けている状態などいろいろな場面を経験することで、本番でどんなことがあっても焦ることなく試合できると思います。なので、他大学への出稽古も取り入れていきたいと思っています。今回の新人戦で自分は最後なのですが、全日本予選に繋げていきたいです。